

《3》「どんな…でも」という意味で種類全体を指す場合（総称用法）



5 A pessimist is a person who always sees the bad side of things. 720

悲観主義者とは、いつも物事の悪い面を気にする人だ。

6 It takes a lot of time to design a car. 721

自動車の設計には大変な時間がかかる。

ここの〈a [an] + 普通名詞〉は、any, each の弱い意味で、「どんな…でも」の意を表す。同類の中から身近な 1 例を取り出して全体に当てはまることを定義する表現形式で、総称用法の 1 つ（→ p.496 「ここが Point!」）。5 の a pessimist は、「悲観主義者なら誰でも」すなわち「悲観主義者一般」の意味。6 の a car は、「自動車なら何でも」ということで、any car の意味である。

【!】 不定冠詞を用いた総称用法は、主として主語の位置で用いられる。目的語の位置では無冠詞の複数形が一般的である。

類例 A plant needs sunlight, water, and carbon dioxide to grow.
植物の生育には日光、水、そして二酸化炭素が必要だ。

《4》「…につき」という意味で

7 I work seven hours a day, five days a week.

722

私は1日7時間、週に5日働く。

不定冠詞は、「1つの単位ごと」というニュアンスで、a dayは「1日につき」、a weekは「1週につき」といった形で使われる。《かたく》ではa [an]の代わりにperを使うこともできる。

語源 a と an と one

みなさんは「ひとつの」の意味を表すという点で共通している one と an が似た音だなと考えたことはないだろうか。教室では「不定冠詞としては、普通はaを用い、母音の前ではanを用いる」と習うので、aが主な用法でanが例外的である、という印象をもっているかも知れない。しかし、実は歴史的にはanの方が古く、もともと数詞として用いられていたanが、12世紀の中頃、母音の前以外ではanのnが落ちてaになってしまったというのが歴史の流れである〔母音の前ではanの形を残して、発音しにくい母音の連続を避けた〕。

この古い方のanに、12～15世紀頃に地方による発音や綴りの上で差が生まれ、結局18世紀の初め頃、綴りはoneで発音は/wʌn/という形で落ち着いたわけである。なお、今でも強勢のないhで始まる音節ではanを好んで用いる作家もいるようである〔例：an historian〕。

ちなみに、不定冠詞a [an]の「…につき」の意を表す用法は〔例：twice a day (1日に2度)〕、「ひとつの」の意味からは若干離れる印象があるが、古い英語の前置詞onに影響を受けたとする説が有力である。

類例 I work part-time at a bookstore once [twice] a week [month].

私は週〔月〕に1〔2〕度、本屋でアルバイトをしています。

This fish costs 5,000 yen a kilo. この魚は1キロあたり5千円する。

The store is open 24 hours a day. その店は24時間営業をしています。

This carpet sells for 100 dollars a meter.

このカーペットは1メートル100ドルで売られている。

発信のヒント

コーパス 不定冠詞を使った慣用句



a long way 遠くに [で], **a number of** A いくつか [数人の, 数個の] A; (米) (特に) いくつもの [多くの] A,

as a result [consequence] (of A) 《かたぐ》(A の) 結果として,

as a whole 全体として, (every) **once in a while** 時々, たまに,

(for) **a long time** 長い間, **for a moment** 一瞬 [少し] の間,

(for) **a while** しばらく (の間),

have a good [hard, difficult] **time** 楽しい [つらい] 時を過ごす,

in a hurry 急いで,

play an important part [role] in A A において重要な役割を果たす [演じる],

take (主に米) [**have** (主に英)] **a look** (at A) (A を) 見る [見てみる] など

be at a loss 困って [途方に暮れて] いる,

all of a sudden (主に話) 突然, 急に,

at a distance 少し離れたところに; 《…ほど》離れたところに 《of》,

at a glance 一見して,

at a time 一度に,

earn [make] **a living** 生計を立てる,

in a sense ある意味で (≡ in one sense),

in a word 一言で言えば (≡ in one word),

make a (big [huge]) **difference** (大変) 重要である,

once upon a time 昔々; 《話》(今よりも) 昔は,

with a view to [of] A A の目的で

What a coincidence! 何という偶然だろう など

発信のヒント 病気につく冠詞

have a cold / headache / sore throat (風邪をひいている, 頭痛がする, 喉が痛い) の時には, a を省略しないが, catch (a) cold / have (a) stomachache [toothache] の場合は省略可能。〔しかし, 形容詞を伴う場合は通例 a を伴う: catch a bad [terrible, horrible] cold ひどいかぜをひく〕

また, インフルエンザは医学用語の influenza の場合は通例無冠詞で用いるが, 日常英語で用いる have (the) flu は the をつけることもあり, 流行っていることを意識した言い方となる。これらは煩雑なので, 用例の中で覚えると良いだろう。

類例 Kate and I play tennis together **once in a while**.

私とケイトは時々一緒にテニスをします。

Koichi was **at a loss** when he lost his wallet.

康一は財布をなくして途方に暮れた。

Then, **all of a sudden**, it started to rain. その時, 突然雨が降り始めた。

練習問題 1 : カッコ内に入る適切な単語を選びなさい

不要の場合は「なし」を選びなさい

→解答 p.494

- ① 今朝頭痛がしたので外出をやめた。

I had (a / なし) headache this morning, so I decided not to go out.

- ② 一度に食べ過ぎてはいけません。

Don't eat too much at (a / なし) time.

- ③ インフルエンザにかかったら, 学校に来てはいけません。

When you have (a / なし) flu, you must not come to school.



《5》 もともと 1 つに限定されるものを指す場合

19 The moon revolves around the Earth. 月は地球の周りを回っている。734

the moon, the Earth は、ともに定冠詞つきで使われているが、moon と言えば私たちは地球の周囲を回っている衛星である「(あの) 月」のことだと聞き手は特定できるので、定冠詞 the をつけて、the moon としている。同様に、the Earth も、今我々が住んでいるこの地のことだと特定できるから、the Earth となっている。

【!】 **コーパス** ただし Earth の場合、前置詞 on と to の後では無冠詞で用いられることが多い。

Mosquitoes are the most dangerous animals **on Earth**.

蚊は地球上でもっとも危険な動物だ。

The three astronauts returned safely **to Earth**.

3 人の宇宙飛行士は無事地球に帰還した。

類例 English is one of the major languages in the world.

英語は世界の主要言語のひとつだ。

the sun 太陽, the sky 空, the ground 地面, the sea 海, the air 空気,
the horizon 地平線, 水平線, the universe 宇宙, the equator 赤道,
the right [left] 右[左], the east [west, south, north] 東[西, 南, 北], the wind 風,
the rain 雨 など



ただし、あらゆる形容詞〔分詞〕がこの形をとれるわけではなく、下記の例のように、社会・経済の状態、年齢、健康状態などに関わるような特定の形容詞に限定されている。

コーパス the + 形容詞でよく使われる表現

the blind (目の不自由な人々)〔the visually impairedの方が好まれる〕,
the deaf (耳の不自由な人々)〔the hearing impairedの方が好まれる〕,
the disabled (障害者たち)〔しばしば disabled people, people with disabilitiesの方が丁寧とされる〕, **the elderly** (高齢者たち), **the old** (老人たち), **the poor** (貧しい人々),
the rich (裕福な人々, 金持ち), the wicked (悪人たち)〔発音は /wɪkɪd/〕,
the young (若者たち)

※ **コーパス** 一部の形容詞・分詞は修飾語を伴うことがある。

the extremely poor (極貧層 (の人たち)), the idle rich (有閑金持ち階級の人たち),
the mentally ill (精神疾患者たち), the severely disabled (重度障害者たち)

【!】 **コーパス** 一部の文脈では、the + 分詞が漠然とした人ではなく、特定の集団を表すことがある。

the accused (被告人 (たち))〔単複両扱い〕, the deceased (故人 (たち))
〔単複両扱い〕, the injured (負傷者たち) など

The accused was taken to court. 被告人は裁判にかけられた。

【!】 〈the + 国名などの形容詞形〉で「国民全体 (the) ... people」を表す。the Japanese は (the) Japanese people とほぼ同じ意味を表す。複数扱い (→ p.503, 567)。

発信のヒント

コーパス 定冠詞を使った慣用句

all the time ((その間中) ずっと; [接続詞的に] …の間ずっと),
around [all over] the world (世界中で [に, を]),
 at the cost [expense] of ... (…を犠牲にして),
at the moment (今のところ; ちょうどその時),
at the same time (同時に; それにもかかわらず),
by the time (that) ... (…するまでには),
by the way (ところで), **for the first time** (初めて),
in the end (最後には),
in the (near) future ((近い) 将来に) [**cf.** in the past (過去に)],
(in) the same way (同じように),
 make the most of ... ((恵まれた状況) を最大限利用する) [**cf.** make the best of ... ((不利な状況) を最大限に利用する)],
on the other hand (他方では) [**cf.** on the one hand (一方では)],
on the way (to ...) ((…への) 途中で) など
all the way ((空間・時間的に) はるばる, ずっと),
at the end of ... (…の終わりに) [**cf.** **in the middle of ...** (…の半ばに)],
 at the beginning of ... (…の始めに),
 in the mid-2020s (2020 年代の半ばに)],
 in the distance (遠方で),
 in the long run (長い目で見れば, 結局),
in the way (じゃまになって),
 on the contrary (それどころか),
 on the Internet (インターネットで),
 on the whole (概して),
 out of the question (問題にならない),
the rest of the ... (残りの…),
the way ([節を従えて] (1) …の仕方: I like **the way** you think. 私は君の考え方が好きだ。(2) …である様),
 to the point (要領を得た),
 What's the matter (with you)? (どうしたんですか) など

よく出てくるから
音読たくさんして
覚えちゃおう!



発信のヒント 紛らわしい慣用句の使い分け

- on the contrary (文頭で) それどころか [→後ろに話し手の意見や、前文と逆の事実が来る]

It was not a good movie. **On the contrary**, it was the worst movie ever.
あれはいい映画じゃなかった。それどころか、最悪の 1 本だった。

- to the contrary (修飾する語の後ろに置いて) それとは逆の
- He suggested something **to the contrary**. 彼はそれとは反対のことを示唆した。

練習問題 4: カッコ内に適切な単語を入れなさい

→解答 p.502

- ① 突然、父は僕の腕をつかんだ。
Suddenly, my father () () () () arm.
- ② 駐車場利用者は1時間単位で課金されます。All visitors who use parking space are charged () () ().
- ③ 登校途中で定期をなくしてしまった。
I lost my train pass () () () () school.

3 定冠詞を伴う固有名詞

The America we learned about in school is not the America we see today. 私たちが学校で習ったアメリカは、今日私たちが目の当たりにするアメリカとは別物だ。

Brian May? You met the Brian May, of Queen?

ブライアン・メイだって? クイーンの、あのブライアン・メイに会ったのかい?

通常、固有名詞に冠詞をつけることはないが、そのもののある側面や種類を特定するために冠詞をつけることがある。The America we learned about in school は、「学校で学習した特定の時期におけるアメリカ」という意味合い。

類例 The New York in that movie is very different from the reality.

あの映画でのニューヨークは、現実の姿とはまるで異なっている。

2 つ目の用例では、後者の Brian May に定冠詞がついているが、「その名前の人物のうち、最も有名な」という意味合いで、同名の人と区別するために the がついている。the は強勢を伴い /ði:/ と発音される。

修飾句を伴わなくとも、慣用的に the をつける場合がある。



(a) 河川・海洋・海峡・運河・半島・砂漠など

原理 river, ocean など後ろにある（隠れている場合もある）普通名詞を 1 つに特定するという意味で the がつく。

the Thames（テムズ川）, the Mississippi (River)（ミシシッピ川）,
the Pacific (Ocean)（太平洋）, the Atlantic (Ocean)（大西洋）,
the Suez Canal（スエズ運河）, the Noto Peninsula（能登半島）,
the Sahara（サハラ砂漠） など

※ the Sea of Japan（日本海）, the Seto Inland Sea（瀬戸内海）の場合, sea は省略できない。

「山・湖・湾」は通例、無冠詞

原理 Mount, Lake など普通名詞が前に来ている場合は無冠詞。

Mt. Everest（エベレスト山）, Lake Michigan（ミシガン湖）, Hudson Bay（ハドソン湾）など

※【例外】the Matterhorn（マッターホルン）, the Jungfrau（ユングフラウ〔ドイツ語で young woman の意〕）のように、定冠詞がつく場合もある。

(b) 船舶・列車・鉄道名

the Queen Elizabeth（クイーン・エリザベス号）, the Nozomi（のぞみ号）,
the Yamanote Line（山手線） など

(c) 公共建築物・ホテル・劇場

原理 後ろにある（隠れている場合もある）普通名詞を 1 つに特定するという意味で the がつく。

the New York Public Library（ニューヨーク公立図書館）, the British Museum（大英博物館）,
the Intercontinental Hotel（インターコンチネンタル・ホテル）,
the Empire State Building（エンパイアステートビル） など

※【例外】「駅・通り・空港・公園」は通例、無冠詞：Shinjuku Station（新宿駅）,
Park Avenue（パーク・アベニュー）, Haneda Airport（羽田空港）,
Grand Canyon National Park（グランドキャニオン国立公園） など。人々の毎日の生活に密着したもので、口にする頻度が高いので the が脱落したと考えられる。

(d) 新聞・雑誌

原理 newspaper, magazine など後ろにある（隠れている場合もある）普通名詞を 1 つに特定するという意味で the がつく。

The New York Times（ニューヨーク・タイムズ紙）,
The Atlantic Monthly（アトランティック・マンスリー誌） など

※【例外】TIME（タイム誌）, Life（ライフ誌）は無冠詞

「食事・スポーツ・ゲーム」などの人間の行為や活動を表す名詞については、普通、無冠詞となる。無冠詞の働きは〈抽象名詞化〉である。

原理

食事に関して「特定の食事」や「食事の種類」について言う場合、冠詞つきで使われる。具体的なものがイメージされているからである。

I had a great time at **the dinner** with my teammates.

私はチームメイトと一緒に夕食を食べ、とても楽しい時間を過ごした。

I had **a gorgeous lunch** of lobster and steak.

私はロブスターとステーキの、豪勢な昼食を食べた。

《2》地位・役職を表す名詞

32 Joe Biden was elected **President** of the United States. 747

ジョー・バイデンは合衆国大統領に選出された。

33 Ken's father served as **mayor** of our city from 2002 to 2006. 748

健の父は2002年から2006年まで我が市の市長を務めた。

具体的な人を表すのではなく、地位や役職を表す名詞については、通例、無冠詞で使われる。無冠詞の働きは〈抽象名詞化〉。**32**の President のように、「地位・役職」などを表す名詞が〈補語〉として使われている場合には無冠詞となるのが一般的。また、**33**の as mayor のように、〈as + 役職〉の場合も普通無冠詞となる。〔ただし、professor（教授）、manager（部長・店長）などのように、その役職を務める人間が複数いる場合には、不定冠詞がつくこともある〕

類例 Toshi is **captain** of our soccer team. トシはサッカー部の部長だ。

原理

補語以外の場合は、冠詞つきになる。地位や役職ではなく、具体的な人物を指すからである。

It was **the president** who chaired the meeting.

会議で議長を務めたのは社長だった。

類例 The Bonin Islands are accessible only **by ship**.

小笠原諸島へは船でしか行けません。

※交通手段ではなく、具体的な乗り物を指す場合には冠詞は必要。get on a bus [train] (バス [電車] に乗る) get in [into] a taxi (タクシーに乗り込む) など。

【!】 (英) と (米) で用法の違いが見られる場合、通常、冠詞つきが (米)、冠詞なしが (英) である。

be in (the) hospital (入院している) go to (the) hospital (病院へ行く)

be discharged from (the) hospital (退院する)

in (the) future (これから先、今後)

《4》呼びかけ

Father, be sure to wake me up at six. 父さん、忘れずに 6 時に起こしてね。

Waiter, give me a check, please.

ウェイターさん、勘定を持ってきてくれないかね。

呼びかけとして一種の固有名詞扱いになっている。ここでの無冠詞の働きは、〈固有名詞化〉である。

職業・職位を表す名詞には呼びかけに使われるものと、使われないものがある。

(1) 呼びかけに使われるもの

doctor (博士・医者) [physician, surgeon など各専門分野の医師などに対して],
professor (教授・先生) [professor, associate professor, assistant professor などに対して],
driver (運転手), officer (警察官) [police officer, policeman, policewoman などに対して]
など

類例 Excuse me, **officer**. すみません、お巡りさん。

(2) 呼びかけに使われないもの

associate professor (准教授), physician (内科医), surgeon (外科医),
policeman (警察官) など

※ teacher については、小学生が教師に対して使うことはあっても、大学生が教師に対して使うことは
ない。普通は Mr. [Ms.] Kato (加藤先生) などのように敬称で呼ぶ。



発信のヒント

コーパス 無冠詞の名詞を使った慣用句

at home (家で, 在宅で; 《主に英》くつろいで), **at present** 《かたく》(現在, 目下),
at work (勤務中で), **by accident** (偶然に, ふとしたことで),
by chance (たまたま, 思いがけなく), **hand in hand** (手に手をとって),
for example [instance] (たとえば),
from place to place (いろいろな場所を〈移動するなど〉; 場所ごとに〈異なるなど〉),
from time to time (時々), **face to face** (面と向かって),
day and night (昼も夜も), **in prison [jail]** (服役して), **in public** (公然と),
in time (間に合って), **in turn** (順番に; (一連の出来事の後) その結果),
on time (時間どおりに), **on TV [television]** (テレビで) [on the radio, on the Internet などでは通例 the を伴う] など

at birth (出生時に),
between parent and child (親子間の [で]),
step by step (一步一步),
by hand (手作業で),
from morning to [till, until] night (朝から晩まで),
day after day (毎日, 来る日も来る日も),
day by day (日々, 日ごとに),
day in (and) day out (明けても暮れても),
from head to toe (頭の先から足のつま先まで),
in 《主に米》 [**at** 《主に英》] **school** (在学して),
side by side (並んで, 一緒に),
young and old (老いも若きも) など

《1》〈**all [both, half, double] + the + 名詞**〉 (38)

一般に, all, both, half, double などは, 定冠詞やその他限定詞に先行する。all the money を × the all money とするのは間違い。「半分のお金」は half the money (× the half money) となる。all, both, half については, 〈**all [both, half] of the ...**〉という形でも用いられる (〈all [half] of the money〉の, 〈部分〉の of が省略された形と見てもよい)。

※ whole の場合は, the whole money となり, × whole the money としない。

類例 It is necessary for you to answer **all (of) the questions**.

質問にはすべてお答えいただく必要があります。

All (of) the restaurants in this area are closed on Sundays.

このあたりのレストランはどこも日曜は閉店しています。

Chile is about **double the size** of Japan.

チリは日本のほぼ 2 倍の大きさだ。

【!】 half an hour, a half hour のように, **不定冠詞**の場合は両方が可能である。ただし, 意味が異なる場合がある。half a bottle は「1 本のボトルの半分」であるが, a half bottle は, 「(最初から半分のサイズの) ハーフボトル 1 本」の意味になる。

《2》〈**so [as, too, how, however] + 形容詞 + a [an] + 名詞**〉 (39)

so, as, too, how, however などの副詞を伴う場合, 《かたく》で上のような順になる。あくまで so は副詞なので, sweet という形容詞を修飾して **so sweet a girl** (そんなにも愛らしい女の子) の順となり, × so a sweet girl や × a so sweet girl のような順にしない。

類例 She is **as bright a student** as any in her class.

《かたく》彼女は同級生の誰よりも頭がいい。

Global warming is **too big a problem** for us to solve by ourselves.

《かたく》地球温暖化は, 私たちだけの力で解決するにはあまりに大きな問題だ。

How beautiful a girl she is! ≡ What a beautiful girl she is!

彼女はなんて美しい女の子なんだ! [what で始まる感嘆文の語順に注意]

However great a disappointment he suffered, he never gave up his dream. どれほどの落胆を味わっても, 彼は夢を諦めなかった。

【!】 区別がややこしいところなので、もう一度まとめておこう。並べ替え問題で注意!

so + 形容詞 + a [an] + 名詞

such + a [an] + (形容詞+) 名詞

2 「一組になったもの」につける冠詞

John Lennon is an outstanding singer and songwriter.

ジョン・レノンは傑出したシンガーにしてソングライターだ。

1つの名詞の前に、冠詞を繰り返して用いるかどうかで意味が異なってくる場合がある。上例の an outstanding singer and songwriter は、「傑出したシンガーにしてソングライター」の意味。これを「傑出したシンガーでありかつその上にソングライター」のように強調したい場合、an outstanding singer and a songwriter と言うこともある。a A and B では「同一の人・物」を指し、a A and a B では「別の人・物」を指す。

類例 There was a black and white cat under the desk.

机の下に白黒のぶちの猫が1匹いた。

There were a black (cat) and a white cat under the desk.

机の下に、白猫と黒猫が1匹ずついた。

※一組になったものは、a A and B の形で用いる。a cup and saucer / a knife and fork など。

練習問題 7: 日本語に合うように単語を並べ替えなさい

→解答 p.510

- ① 人生であんな楽しい時間はなかった。

I never had (a / in / great / such / time) my life.

- ② 昨日、友人が本当に素晴らしいプレゼンをしたので僕は感動した。

I was moved that my friend (presentation / so / terrific / made / a) yesterday.

- ③ それは捨てるにはあまりに惜しい本だ。

That is (to / a / book / good / too) throw away.

Grammar in Writing 冠詞的な some

冠詞を理解するときに、無冠詞も一種の冠詞であるという認識（→ p.504-507）と同時に、冠詞以外にも冠詞的に働く言葉（限定詞）があるという認識があると、より正確に使うことができるようになります。「冠詞ではないけれども冠詞のような働きをする言葉」の代表例が some です。

1) コーヒーをもらえますか？

この和文を英語ではどのように表現するとよいでしょうか。

1a) Could I have coffee?

1b) Could I have some coffee?

1a) のように修飾語句を付けなければ、coffee という名詞そのものに焦点が当たり、「water でも tea でもなく、coffee」という意味になります。それに対し、1b) のように some coffee とすると、そのような対比が感じられなくなります。したがって、他の飲み物と対比する文脈、たとえば飲食店で注文する場合などは、1a) のように言い、そうでなければ 1b) のように言うのが普通です。

このとき、some 自体の意味を日本語に訳すのはたいへん難しいことです。write with a pencil と言うときの a は、厳密には「1本の」とでも訳せる意味を持っていますが、普通は日本語でそのようには言いません。それと同様に、1b) の some coffee における some は、可算名詞 pencil につく a と同様に冠詞的な役割をし、「そこにある程度の量がある」というような意味を表すのですが、日本語ではわざわざそのような言い方はしません。しかし、a pencil も some coffee も、a や some がないと英語としては意味がおかしくなってしまいます（無冠詞は抽象概念や、ある物質の総体を表します）。この点において、some は a と同様に、冠詞としての働きをしていると言えます。なお、この場合の some は弱形 /s(ə)m/ で発音されます。

類例を見ておきましょう。

2) 旅行に行くときには本を持って行く。

When I go on a trip, I take some books with me.

I take books だと、本以外のもの、たとえばゲーム機などと対比している感じが出ますが、some books とすることで、そういった対比を感じさせることなく、シンプルに「本を持って行く」という意味が出せます。また、この some は「何冊か」という意味は希薄です。「何冊か」という意味を出したければ several books と言います。

3) アドバイスをください。

Give me some advice, please.

Give me advice. だと、Give me advice, not complaint.（文句を言うんじゃなくてアドバイスをくれ）のような文脈が感じられます。

このような不可算名詞や可算名詞の複数形の前で使う some の用法に慣れると、名詞句をより正確に使えるようになります。
